

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

## (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①: 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

## 【観点到係る状況】

教育活動の実態を示すデータや資料としては、基本的なものとして学科課程表、シラバス、時間割表、科目履修者名簿、出席簿、休講・補講記録、成績簿等を蓄積している。また、各学期末に学生による授業評価（原則として全科目対象）、学年末には在学生による本学評価、そしてホームページ上での卒業生による本学評価、さらに学生の就職先へのアンケート調査を行い、その結果は、学生による授業評価、在学生による本学評価及び卒業生による本学評価については学内ウェブ上（卒業生による本学評価はホームページ上にも）で公表し、電子データで蓄積している。また、学生による授業評価と在学生による本学評価については附属図書館において紙媒体での開示を行っている。

このように、学科やコースの性格に合わせて、活動の実態を示すデータや資料を収集し蓄積している（表 9-1）。また、活動実態データの一例として、学生による授業評価結果に関するデータを図 9-1 及び 9-2 に示す。

表 9-1 教育の状況に関する活動の実態を示す資料一覧

全学		学科課程表、教員担当科目一覧（別冊資料 B 学生便覧）、シラバス、時間割表、科目履修者名簿、出席簿、休講・補講記録、成績簿等 学生による授業評価（冊子と学内ウェブ）、在学生による本学評価（冊子と学内ウェブ）、卒業生による本学評価（ホームページ <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/topix/090528.pdf">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/topix/090528.pdf</a> ）、卒業生就職先へのアンケート調査（冊子）、学生参画型実学・実践教育データ（ホームページ <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/09/13507.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/09/13507.html</a> ）
産 業 情 報 学 科	学科共通	CG 演習 A、CG 演習 B、情報システム論（ホームページ <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/142.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/142.html</a> ）
	経営情報コース	卒業論文要旨集（冊子とホームページ <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/141.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/141.html</a> ）
	デザイン情報コース	デザイン情報コース 卒業研究発表会研究要旨集（冊子とホームページ）、作品集（冊子）、卒業展リーフレット（冊子等）、平面構成法・色彩学（ホームページ）、デザイン情報基礎実習（ホームページ）、各種デザインコンペティションや美術展の入賞（ホームページ） ※ホームページの URL はいずれも <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/142.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/142.html</a>
食物栄養学科		卒業研究要旨（冊子）、資格関連科目授業日誌（学生係保管）、学外実習指導（冊子等）、臨床栄養学実習、給食管理実習（学内）（ホームページ <a href="http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/143.html">http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/143.html</a> ）

図9-1 「学生による授業評価」回答率の推移

単位：%

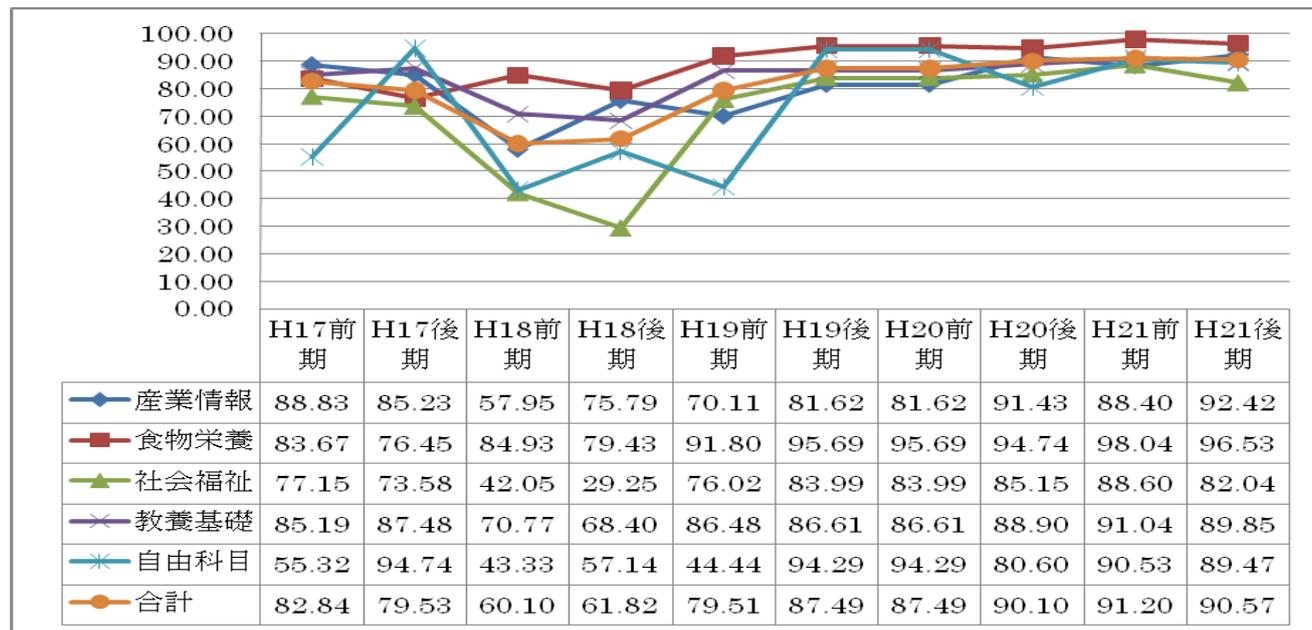
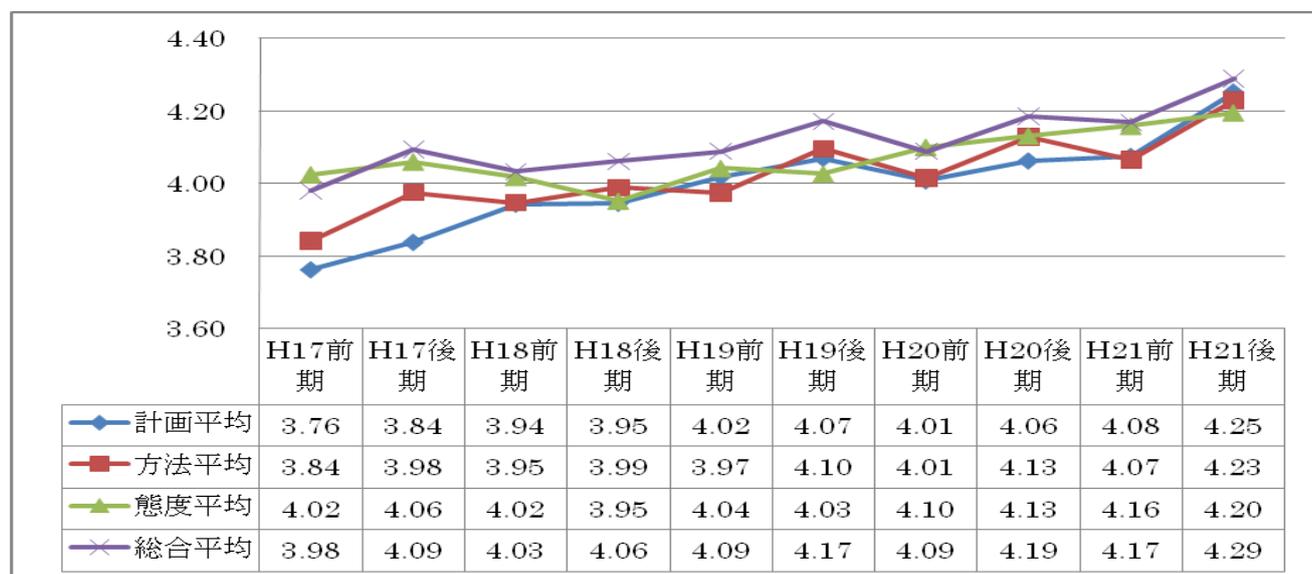


図9-2 「学生による授業評価」部門別平均評価値の推移



※1 「学生による授業評価」の設問内容は、「授業計画」「授業方法」「受講態度」「総合評価」の四部門で構成されている。質問項目は表9-2のとおりであるが、質問項目については各教員の授業内容に応じて変更可能である。

2 数値は5点満点評価の平均値。

表 9-2 「学生による授業評価」質問項目基本表

<p>1. 授業計画について</p> <p>(1) 授業の目的・内容（概要）について十分な説明があった</p> <p>(2) 評価方法について十分な説明があった</p> <p>(3) シラバスは授業概要を理解するのに役立つ</p> <p>2. 授業方法について</p> <p>(4) ポイントをおさえて、要領よく説明している</p> <p>(5) 話し方や説明が適切で、内容を理解しやすい</p> <p>(6) 教員の声は聞きとりやすい</p> <p>(7) ノートはとりやすい</p> <p>(8) いろいろな見解なども紹介し、多角的に考える機会をあたえている</p> <p>(9) 学生の質問や意見が出しやすい授業であった</p> <p>(10) 学生の知識・理解の進み具合を考慮して授業を進めている</p> <p>(11) 授業への情熱が感じられる</p> <p>(12) 状況に応じて資料を配布したり、映像を利用したり、工夫している</p> <p>(13) 教科書や参考書・資料などを活用している</p> <p>(14) 板書やOHP、プロジェクタなどの字は見やすい</p> <p>3. あなた自身の学習方法・態度について</p> <p>(15) 出席率は良好であった</p> <p>(16) 受講態度は良好であった</p> <p>(17) 意欲的に学ぼうとした</p> <p>(18) 予習や復習をおこなって授業に出席した</p> <p>4. 総合評価について</p> <p>(19) この授業は自分にとって意義深いものであった</p> <p>(20) 授業の内容は、ほぼ理解できた</p> <p>(21) この分野に関して、専門的な関心や興味ももてるようになった</p> <p>(22) この授業はよい授業であった</p>
---

## 【分析結果とその根拠理由】

活動の実態を示すデータや資料として、学科課程表、シラバス、時間割等の基本的なもののほか、学生による授業評価、在学生による本学評価等の結果等についても収集し、蓄積している。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

**観点 9-1-②：** 短期大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

## 【観点到る状況】

学生の意見聴取については、前期・後期の期末に原則全科目を対象（一部学外施設での実習等この制度に馴染

まない科目を対象からはずしている)に学生による授業評価を実施し、授業に関する意見・評価を得ている。また、学年末には在学生による本学評価を実施し、入学目的とその達成度、授業内容・授業環境に対する印象、教養基礎科目のカリキュラムの評価と要望、専門教育科目のカリキュラムについての評価と要望、講義形態に対する要望、その他就職活動や施設設備等への要望について聴取しているほか、学生生活アンケートを実施して実態を把握し適切な学習環境の整備に活かしている(前出資料7-3-1-B 平成22年度学生生活アンケート集計結果)。

学生による授業評価の結果は科目担当教員に配付され、教員はこの評価に対し授業改善の方策等を明文化した回答書を作成し、それに基づいて各自が授業改革を行うシステムとなっている。なお、評価結果の概要と教員からの回答は学内ウェブに掲載され、さらにこれに評価結果(数値データのみで、記述データは掲載しない)を加えたものが附属図書館において冊子で開示されている。また、各学科長には所属学科の全科目の評価結果(自由記述も含む)のデータが示され、学科運営に役立てている。

在学生による本学評価の結果は数値データが学内ウェブ上に公開されるほか、記述データを加えたものが附属図書館で開示される。また、集計結果の検討等は評価委員会内に設けられた授業・本学評価小委員会で行うが、そのメンバーは各学科から選出されており、結果の要点は委員を通して関係部署に伝えられ、活用されている。

教員の意見については、各学科会議や各種委員会等で把握するほか、全員参加の教授会で意見等を述べる事が可能となっている。

教職員及び学生からの意見が反映された改善例は表9-3のとおりである。

表9-3 学生からの意見が反映された改善例

図書館の延長開館	17時の閉館時間を19時30分まで延長し、その延長開館日数を年々増加させている。
図書館の土曜開館	定期試験期間等限定的ではあるけれども土曜日の開館を実現し、その土曜開館日数を年々増加させている。
大学開放時間延長	土曜日は17時30分までであったものを19時30分までとした。
大学開放日の増加	日曜日と土曜日と同じ時間帯で開放するようにした。
エレベータの設置	南北両棟に1基ずつ設置した。
コンピュータ関連施設の開放時間の延長	電子錠を導入し、月曜日から金曜日の8時から17時30分までであった利用可能時間を平日は8時から22時まで、土日は8時から19時までと拡大した。
手洗い場の設置	各棟、階ごとに設置した。
売店・食堂の開業時間	14時までであったものを1時間延長して15時までとなった。

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学の構成員からの意見聴取は多様な方法で行われており、そこで得られた意見は十分に活用されている。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点9-1-③: 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

## 【観点に係る状況】

学外者からの意見を聴取し活用する組織・手段としては次のものがある。

第一は、経営に関する基本方針を審議する経営審議会である。

第二は、外部の有識者2名が委員として加わり、本学の教育研究の方針を審議する教育研究審議会である。平成20年度より実施しているホームカミング・レポーターはこの審議会の外部委員の意見を取り入れ実施されたものである。

第三は、本学の教育等の実社会における適合性を問うとともに在学生へのアドバイスを募る「卒業生による本学評価」である。

第四は、会社の実務という観点から本学卒業生の評価を問う「卒業生勤務先へのアンケート」である。この集計結果は教授会で報告され、各教員を通じて学生の指導にも反映されている。一例を挙げれば、産業情報学科の学生が企画した平成21年度オリエンテーションキャンプのテーマ「積極性とはなにか?」は、このアンケート調査結果が反映されたものであった。

第五は、高校側に対して入試制度を始めとした本学に対する要望と評価を聴取する「高校訪問の際の意見聴取」である。この結果は広報委員会で集約されて教授会で報告され、教育方針や入試制度を考える際の参考資料として活用している。

この他、会津大学短期大学部進路ガイドブック（別冊資料I）には、50余名の卒業生が就職・進学活動体験記を寄せており、在学生の就職・進学活動に活用されている。

## 【分析結果とその根拠理由】

学外関係者の意見を取り入れる機会を複数持っており、それが継続している。また、その意見が具体的に活かされている。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

**観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。**

## 【観点に係る状況】

授業内容の改善は、個々の教員が行っている。それは毎学期行われる学生による授業評価の結果を受けて各授業で不十分な点が明らかとなることから、それへの対処方法を工夫するといった形で行われている。また、次年度の授業評価の際はその工夫した点の評価を問うこともできるよう授業方法に関する設問内容の変更が認められているなど、継続的に改善を進めることができるシステムとなっている。さらに、FD活動として、全教員が見学する公開授業を実施し、その後意見交換会に参加すること等で改善の方法を学ぶ機会も設けられている。

## 【分析結果とその根拠理由】

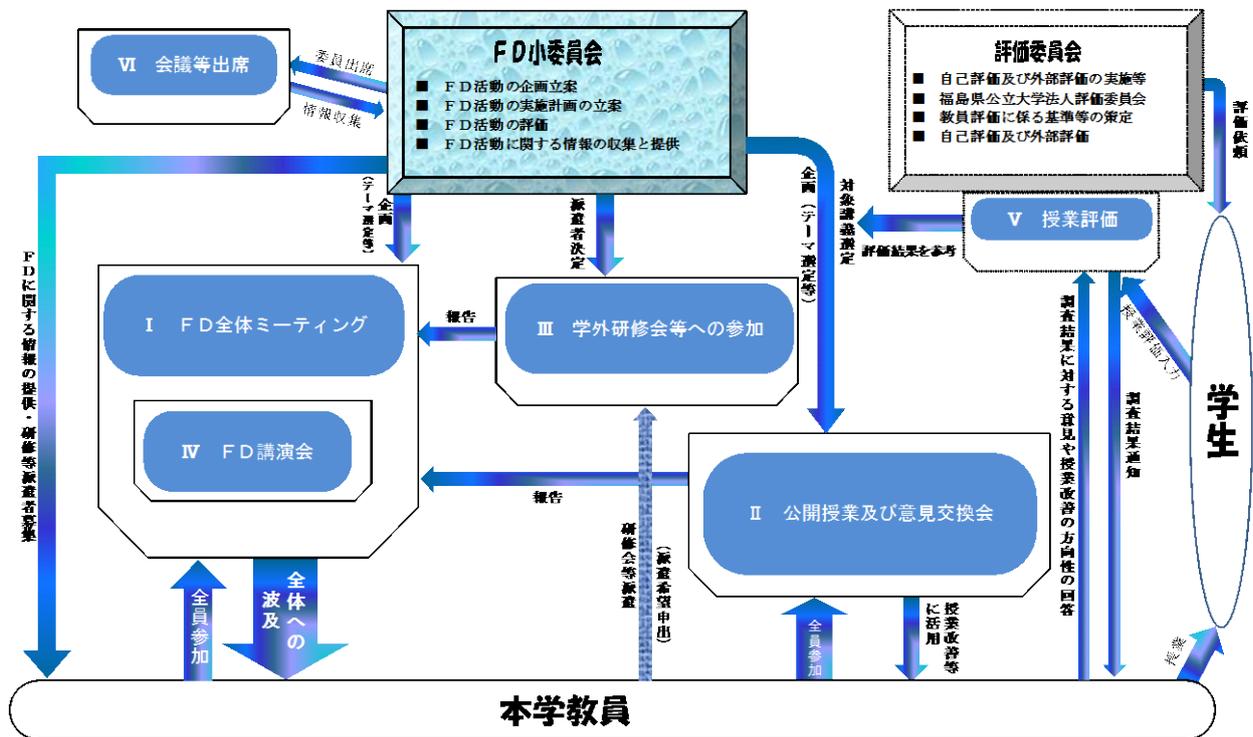
評価→改善方法の回答→改善→改善に対する評価→確認というシステムが構築されている。その前提となる授業評価の学生回答率は9割前後と高く（前出図9-1）、評価の信頼性は担保されていると考えられる。また、前出図9-2からも明らかのように授業方法についての評価や総合評価は着実に上昇している。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点に係る状況】

本学の授業改善への取組みは、下図のような体制で行っている。すなわち、評価委員会の行う「学生による授業評価」とともに、平成19年度から企画運営委員会内にファカルティ・ディベロップメント（FD）小委員会を設け、FD活動の企画・実施計画の立案、FD活動の評価、FD活動に関する情報の収集と提供等について審議し、本学全体の教育の質の向上を図っている。

図9-3 会津大学短期大学部FD活動実施体制図



FD小委員会では、初年度（平成19年度）には平成20年度から「FDネットワークつばさ」に参加することを決めた。「FDネットワークつばさ」は、連携する大学・短大・高専におけるFDの立上げ・確立・発展を共同で行い、授業改善・カリキュラム・教育制度改善などを実現させ、その成果を共有するとともに、各大学等における特色ある魅力的な教育を開発することを目的としている。このネットワークから紹介された様々なFDワークショップ、セミナー、研修会、模擬授業の見学等に教員を派遣した。平成20年度から本格的に教育の質の向上及び改善に資するためのFD活動を開始し、以下のような取組みを行っている。

1 FD全体ミーティングの開催

FDに関するテーマについて本学全教員による意見交換・情報共有を行う場としてFD全体ミーティングを開催し、各種セミナーや研修会等への参加報告を実施している。

2 公開授業・意見交換会の実施

学生による授業評価において全体の平均評価が低い設問を抽出し、この設問の評価が逆に高い講義を公開授業として全教員の見学を義務化した。また、公開授業に併せて意見交換会を実施し、反省会ではなく学び合いの場として授業改善のための情報共有の機会を用意した。

### 3 FD 講演会の実施

外部から講師を招き、先進的な FD 活動事例を学ぶ場とした。

### 4 各種シンポジウム・研修会への参加

他の機関が実施する FD に関する研修会等（ワークショップ、シンポジウム、セミナー等）に本学の教員を派遣し、FD 活動についての情報収集を行った。また、これらの内容については先述した FD 全体ミーティングなどで報告し、学内での情報共有に努めた。FD に関する研修会等への参加は、FD の意義に関する詳細な分析と解説による理解を深めるとともに、FD 活動の進め方の様々な実例とその効果を知ることができ、本学での FD 活動や授業改善へのヒントを得ることができた。

これら FD 活動についての各資料は教職員共有のフォルダに保存し、教職員が閲覧できるようにするとともに、「FD ネットワークつばさ」の年次報告集にも掲載している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

FD 活動は本格的に開始したばかりであるが、適切な方法で実施され、FD 活動後の成果を把握するためにアンケートを実施している。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

#### 観点 9-2-②： 教育支援者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

#### 【観点到に係る状況】

本学における教育支援者は、産業情報学科及び社会福祉学科に所属している非常勤実習助手、コンピュータセンター技能員並びに事務職員（附属図書館・キャリア支援センター・地域活性化センター職員を含む）である。食物栄養学科にも 3名の助手が所属しているが、この 3名は教育支援者ではなく教員として FD 活動に参加している。その他の非常勤実習助手、コンピュータセンター技能員、事務職員について SD 活動への参加を推進している。

例えば、コンピュータセンター運営委員会では、各種セミナーへの参加による教職員の技術レベルの向上を図るため、ネットワーク関係の技術セミナーや各種セキュリティ対策セミナーへの参加を奨励し、コンピュータセンターに関わる教職員の技術レベルの強化を図っている（表 9-4）。

表 9-4 教職員の主な参加研修名及び参加件数

年 度	主な参加研修名及び参加件数
平成 17 年度	東北セキュリティセミナー2005 など 8 件
平成 18 年度	ネットワークセキュリティ担当者研修など 7 件
平成 19 年度	第 19 回情報処理センター等担当者技術研究会など 2 件
平成 20 年度	ネットワーク管理担当者研修など 3 件
平成 21 年度	第 21 回情報処理センター等担当者技術研究会など 6 件

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学はきめ細かい少人数教育を実現するため、教育支援者に対する資質の向上を図るための研修等を行っている。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

学外関係者からの意見聴取の方法を複数有している。

授業評価については、全科目を対象とするとともに、ウェブ入力により自由記述欄を多く取り入れることや、授業方法など各教員が独自に工夫している点についての評価を問うことができるようにしている。また、学生回答率が9割前後と高い状況にある。

さらに、個々の教員単位での活動であった教育改善が組織的なものとなり、公開授業とその後の意見交換会には、ほぼ全教員が参加し、FDに対する意識改革や情報共有が促進されることとなった。

### 【改善を要する点】

授業評価結果に対する教員回答率は、常勤教員で96.8%を確保しているが、非常勤教員は44.7%にとどまっており、非常勤教員の協力を求めていく必要がある。

今後は、FD活動の一層の充実を図るため、FDの効果を測るための評価基準などについて検討していく必要がある。

## (3) 基準9の自己評価の概要

- ・本学では、教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集、蓄積し、学内ウェブやホームページ上に公表している。(観点9-1-①)
- ・本学構成員及び学外関係者からの意見聴取は複数の方法で継続的に行われており、その結果は授業改善、学内制度や施設・設備の改善等に適切に活用されている。(観点9-1-②③)
- ・評価委員会によって、「学生による授業評価」の詳細な分析が組織的に行われ、その結果は教員へ配布されるとともにFD活動の企画立案にも利用されており、教育の質の向上・改善に直結した適切なシステムが組織的に整備されている。(観点9-1-④)
- ・FD活動の中で、組織的にFDの意義を確認し、公開授業の見学等により授業改善の具体的な手がかりを得られる取組みを行っている。(観点9-2-①)
- ・教育支援者に対する資質の向上を図るための研修等、その取組みは適切に行われている。(観点9-2-②)